

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792600025		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん坂下		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町大字見明字古屋敷771-1		
自己評価作成日	平成30年7月31日	評価結果市町村受理日	平成30年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4月より看護師が入社し、ご利用者の体調管理をメインに業務している。今まで介護職員では対応が難しかった部分に看護師がいる事で、体調を崩すご利用者が少なくなっている。今現在坂下厚生病院の薬剤師の方と連携がとれていて、外部より身体拘束、感染症、虐待、認知症の講習を行っている。(内部研修も行っている)現在職員が働き易い環境を良くし、離職者を防いでいる。職員の教育をスキルアップに繋げご利用者様との関係性を良くし現場を明るく出来る様に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 法人は東北地方に多くの介護関連事業所を展開しており、豊富な経験と知識をもって各事業所を支えるサポート体制が確立されている。さらに法人事業所相互の情報を共有して質の高いケアに努めている。
 2 事業所では4月より看護師を採用し、さらなる利用者の健康管理に努めている。また、協力医療機関の薬剤師から投薬等について多くのアドバイスがあり、利用者や家族の安心につながっている。
 3 管理者を中心に職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、利用者の表情も明るく楽しい雰囲気のある事業所である。
 4 事業所では地域の行事等に積極的に参加し、また、事業所の行事(夏祭り、そば祭り等)には地域住民やボランティアの参加があり、あらゆる機会を通じて交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士、会社の理念を共有し、実践に繋がっている。各職員自己評価を行い管理者評価し、個別に面談を行っている。	事業所の理念は、「地域との絆を大切に」と、地域密着型施設を表明している。理念は事業所内に掲示をし、月例の「職員会議」時には「法人理念」及び「事業所理念」を確認し合い日頃のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し地域の方との交流に努めている。御利用者様と散歩の時に地域の方に挨拶する様に職員に周知している。	地域の自治会に加入し、事業所行事等を地域の回覧に掲載してもらうなど、常に情報の交換をしている。地域のクリーン作戦に参加したり、地域の方から事業所の草刈りやハチの巣駆除など協力してもらっている。ボランティアも数多く受け入れている。中学・高校生の職場体験も毎年受け入れており、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かして地域の方との意見交換は出来ていません。運営推進会議で区長様との情報交換のみとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進委員会を年6回開催し運営状況を説明し、御家族様、包括、役場、民生委員、区長の方と情報交換し課題について話し合いを行い、アドバイスを頂きサービス向上に努めている。	運営推進会議は定期的に開催しており、利用者状況や事業所活動状況等を報告し、委員からは様々な意見や提言があり、サービスの向上に活かされている。委員も各分野から広く選任され、提言内容も多岐にわたっている。議事録も詳細に記載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて担当の方との情報交換を行い運営方針、ケアサービスについて説明、アドバイスを頂き協力関係を築くように取り組んでいる。	行政の担当者は運営推進会議に毎回参加している。事業所の状況を詳細に理解してもらっており、緊密に連携を取っている。生活保護制度利用者もおり、担当職員とも常時連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束の勉強会を開いている。今年度より坂下厚生病院から講師を招き外部、内部研修を行う。各職員の身体拘束の理解を深め実践に活かしている。3か月に1度の身体拘束廃止委員会の会議実施している。	事業所の「教育委員会」を中心に「身体拘束廃止マニュアル」を整備し、研修会を実施している。年間を通して全職員が研修を受ける体制となっている。今年の「身体拘束廃止委員会」は6月、9月、12月に開催予定で、6月に第1回の委員会を実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に坂下厚生病院から講師を招き内部、外部の勉強会を行なった。ストレスチェックを活用し、管理者、職員で開始している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ会津保険事務局との情報交換及び連絡を行っているのみとなっている。成年後見人制度の勉強会は行っていない。今後学びの必要性がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明、加算についての説明をおこなっている。ご利用者様、御家族様が不安、疑問点にはすぐ対応できるよう心掛けしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開き意見交換を行っている。3か月に一度ケアプラン作成前に御家族様、御本人様の要望を聞きケアプランに反映させている。意見、苦情箱、苦情窓口案内を玄関に設置、提示している。	利用者の意向は日常生活の中で把握しており、さらに家族からも面会時や家族会等を通して意向を把握している。把握した意見や提言等は、月例の「職員会議」等に諮り事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との話し合いを多く持つ為、カンファレンスの時間を設け管理者、職員との話し合いの中で御利用者様の支援に活かしている。	管理者は毎日の勤務の中で、常に職員の意見や要望を聴取している。月例の「職員会議」時にも全職員で話し合い、出された要望等は運営に反映させている。「教育委員会」が中心となり、職員の研修制度もあり資質の向上に努めている。職員の意見は全て法人に上申されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働き易い環境を整えられるよう日々管理者、教育委員で相談し職場の雰囲気や働きやすさを良く出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップを図り内部研修だけではなく、外部から講師を招き勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂下社会福祉協議会が開催する多種連携セミナーに管理者、ケアマネージャーが参加し同業者との交流を図っている。各職員が同業者との交流を図れる様に勉強会への参加を促している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に実態調査にて御本人様、に不安や要望をお聞きし、職員と情報交換を行いサービス開始している。入所されてからも御本人様との会話の中で信頼関係を築けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に実態調査にて御家族様に不安や要望をお聞きし、職員と情報交換を行いサービス開始している。入所されてからも御家族様に要望をお聞きし良い関係を築けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、実態調査時御本人様、御家族様の意向、要望をお聞きし、ケアプランを作成し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様と共に過ごし支え合う事を意識しながら支援を行っている。御本人様の意見を尊重し業務している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の絆を大事にし、御家族様の来所時には笑顔で対応出来ている。御利用者様、御家族様の意見を取り入れ、御家族様と良い関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の親戚の方が面会に来所される事があり頻回ではないが、自宅付近の外出支援を行っている。施設ではご利用者様が愛用されている物を提供する支援を行っている。	利用者の家族や親戚の方の来訪時には自宅周辺をドライブしたり、以前の住環境を見聞する等の支援を行っている。家族の協力を得ながら馴染みの商店や美容院の利用等を継続しているが、訪問理美容の利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士洗濯物たたみ、干し方、塗り絵など関わりを持てるよう支援している。各御利用者様のペースに合わせて支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各職員が休日に退去されたご利用者様の面会に行き御家族様と会話をした。退去されたご利用者様が亡くなられた時御家族様が来所、電話にてお礼のお言葉を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士で御利用者様については話し合いを行い一人のご利用者様にはどのような支援が必要かを検討し取り組んでいる。職員全員がご利用者様の思いや意向について関心を持ち支援している。	職員は、日常のケアの中で利用者の些細な仕草や会話から一人ひとりの思いや意向を把握している。把握が困難な場合は、利用者の表情や仕草からくみ取っており、さらに家族の意向等も反映し月例の「カンファレンス会議」で話し合い利用者本位のケアに当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員同士で御利用者様の生活歴、生活環境の情報交換を行い、御利用者様に過ごしやすい環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が情報を共有し、日々の状態を把握しながら業務を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い月に1度モニタリングを行い職員同士で今後どんな支援が必要か話し合っている。ケアプラン作成前にご利用者様、御家族様、後見人の方に要望をお聞きしている。	入居当初の介護計画はそれまでの生活歴や利用者及び家族の意向等を把握し、暫定的な介護計画でサービスを開始し、日々気づいたものから計画に追加している。その後はモニタリング等も参考にカンファレンスを開催し、3ヶ月ごとに介護計画を見直している。状態が急変した場合には医師・家族・看護師等と協議し、随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し気づきがあれば特記事項として記録している。各職員に情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様のその時に生まれるニーズに対応はしている。その都度職員同士相談しながら、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招き歌、踊りを披露して頂いている。2ヶ月に1度美容院を使用している。文化祭、地区行事に参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	坂下厚生病院に受診者8名、1名喜多方の有隣病院へ受診している。御本人様、御家族様の意見を尊重し受診対応を行って頂いている。緊急時は職員対応で受診している。	かかりつけ医の受診は家族同伴を基本としているが、急変時等は職員が同行することもある。看護師が常勤しているので利用者の現状を詳細に家族に報告し、受診に活かしている。受診結果は家族から事業所に報告があり双方で共有している。歯科医の訪問診療を受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師が常勤である為、介護職、看護師が連携しご利用者様に適切な受診が行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した日に病院側と情報交換を行っている。入院期間中も病院と連絡を取り合い早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の職員の力量を理解し、何処までの支援ができるかを把握しながら、医師、御家族様と相談しながらケアをしている。今年度より看護師が加わり終末期の支援のあり方を職員が勉強しなくてはならない。	「看取りに関する指針」及び「看取り介護についての同意書」が策定され、利用開始時に詳細に説明している。現在まで看取り介護の実績はないが、看護師が採用されたのに伴い、終末期医療の体制を整えており、計画的に職員の研修を実施している。終末期の対応については家族の希望により柔軟に対応することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、急変時の対応の仕方は、緊急時マニュアルがあり、救命救急を年1回開き講習を行っている。各種勉強会を開き実践力を身に付ける努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけではなく、土砂、地震について避難訓練を行っている。災害備品については1年に2度確認を行っている。地域の方に参加を促してはいるが、保留となっている。(年2回の総合防災訓練実施)災害マニュアルがある。土砂災害マニュアルについては作成し消防計画作成に追加する。	消防署立ち会いの総合防災訓練は年2回実施している。事業所独自の訓練にはあらゆる災害に対応できるよう、避難誘導・通信等の各種訓練を実施している。事業所では備品として水、カップめん、毛布、乾電池・発電機・衛生品等が、3日分を目安に保管され、年2回の点検を実施している。地域住民には会議等を通して訓練への参加を呼び掛けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人、一人の尊重とプライバシーの確保について、接遇スローガンにて各職員に周知している。	全職員がマニュアルをもとに利用者の思いや尊厳を尊重し、プライバシーを守るケアに当たっている。個人情報の簿冊等は施錠可能なキャビネットで管理している。広報紙に掲載される写真等は、「写真利用に関する同意書」を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の日常での行動を観察し、何が出来る事かを分析し、各御利用者様の自己決定できるよう支援している。自己決定出来ない御利用者様に関しては、動きを観察し抑制しないよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせ希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族様に協力して頂き馴染みの理美容院を利用しているご利用者様もいる。施設に2ヶ月に1度理美容でカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ご利用者様に盛り付けをして頂いている。食事中は、御利用者様の見守り、食事介助を行いながら職員も一緒に食事をしている。	利用者の嗜好を把握し、旬の食材を多く取り入れたメニューを職員が策定している。食材の下ごしらえや食事の準備は職員と一緒に楽しみながら行っている。利用者の状態によりおかゆや刻み食にも対応している。年間を通して行事食や外食を多く企画し実践しており、利用者の楽しみとなっている。家族から季節の野菜の差し入れも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各御利用者様の体調面を考えながら、水分にトロミをつけたり、水分制限がある方に関しては記録等を活かし水分補給している。食事に偏りがないように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きティッシュを活用し口腔ケアを実施している。自力で歯磨きされるご利用者様は見守り、声掛けを行っている。食事前の手洗い、うがいを徹底している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し定期的にトイレ誘導を行いパット軽減に努めている。	トイレでの自立排泄を目標に支援している。個々の排泄チェック表により排泄パターンや仕草、時間等を考慮し、やさしくさりげない声かけで誘導し、トイレでの自立排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	御本人様の希望にて下剤を使用している。(医師に指示)医師の診断により下剤を使用しているご利用者様が多い。施設では牛乳、ヨーグルト、ヤクルトを提供し、便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は出来るだけ御本人の希望をお聞きし行っているが、職員の業務時間に合わせてしまう事がある。	利用者の体調や時刻等希望に応じて、入浴支援を行っている。入浴嫌いの利用者には、担当者・時刻・話題等を変え気分転換を図ったところで入浴に繋げている。入浴できない利用者にはシャワー浴・足湯・清拭等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールにて塗り絵、編み物をされ過ぎられるご利用者様が多い。休息されたいご利用者様には居室にて過ごされる方もいる。夜間帯は入眠出来る様に支援出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1カ月に2度坂下厚生病院の薬剤師様に来所して頂き薬の勉強会、各御利用者様の現在の状態について情報交換をし、アドバイスを頂いている。服薬マニュアルを活用し誤薬対策を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々会話の中でご利用者様のやりたい事を見つけ御家族様の協力をして頂き、気分転換出来るよう役割や楽しみ事を増やせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事ごとだけではなくドライブ感覚で外出支援を行っている。御本人様の自宅周りへ行く事がある。	好天時には事業所周りの散歩や菜園での野菜作りを楽しんでいる。事業所行事としてドライブで花見・鯉のぼり・花菖蒲等の観覧に出かけており、また、家族の協力を得て外泊や外食、墓参り等を実施している。庭で茶話会等を開き外気浴を楽しんで気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面に関しては管理出来るご利用者様は所持されている。買い物については、施設側が立て替えし後日御家族様に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が行いご利用者様とお話できるように支援している。手紙をやり取りされる方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファを使用し、ご利用者様が休息できるスペースを確保している。御利用者様が行事や日常での生活様子を写真に収めアルバム作成を行っている。(1日3回温度、湿度管理している)	共用空間は広く、小グループで過ごせるよう椅子とテーブルが配置され、ソファコーナーも多く、前面ガラス戸の開放的な共用空間となっている。壁には利用者の生活状況の写真や季節感溢れる作品が飾られ和みのエリアになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士会話できるような席を近くにしたり、テレビをみたいご利用者様にはテレビの近くに席を設けるなど、状況を考えながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各職員が各ご利用者様のプライバシーの侵害を理解して支援し、ご利用者様の居室に馴染みの物を活かせる様配慮している。	居室は希望により和室仕様(畳に布団等)にも対応している。部屋にはエアコン・ファンヒーター・換気扇・トイレ・介護ベット・小筆筒及びクローゼットが装備されている。利用者は壁に好みの作品や写真を飾ったり、小筆筒・ドレッサー・テレビ等馴染みのものが持ち込み自由に生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、居室にてご利用者様が自立し、安全に生活できるよう職員が事故防止、物品の管理(危険な物をご利用者様の手に届かないように施錠する)している。		